

2011 年度報告書（研究員）

氏 名	小島 剛
職 位	研究員（短時間）
<p>研究概要</p> <p>今年度のもっとも主要な活動は、弘文堂社より刊行予定の改訂版『新社会学辞典』の「レギュラトリー・サイエンス」の項目の執筆であった。これは短文であるので、全文引用する。</p> <p>レギュラトリーサイエンス</p> <p>[英]Regulatory Science</p> <p>北米と日本では使われ方が異なる用語であるが、本項では「規制科学=レギュラトリーサイエンス」として解説する。レギュラトリーサイエンス学会では、この語を、「医薬品、医療機器等の品質・安全性・有効性を確保するためには、基礎科学や応用科学による試験研究の結果等に基づき、的確に評価、予測、判断し、社会に受け入れられるように管理調整する必要」「その基盤となる科学」と定義しているが、今日では医薬品・医療機器以外の分野でも積極的に用いられている言葉であり、あえてこの分野に限定されているのは、この用語が日本では薬学者内山充の提唱によって発生・進化したからである。北米では、齊尾武郎・栗原千絵子の整理によると、さしずめ、公共政策の決定に関する学際的な科学を表す言葉として、1970年代前半から医薬品関係者の間で使われ始め、1980年代後半から1990年代に科学技術社会論の中でも用いられるようになったといえることができる。しかし、彼らが指摘するように、その使用に関しては混乱や恣意的なものが見られることを否定できない。【主要文献】 齊尾武郎・栗原千絵子「レギュラトリーサイエンス・ウォーズ——概念の混乱と科学論者の迷走」臨床評価 38 巻 1 号、177-188、2010。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>その他</p> <p>小島 剛 「レギュラトリー・サイエンス」『新社会学辞典』（改訂版）近刊。</p>	